

純潔と無頼

一七四番 吾々不郎

坂口安吾も無頼派と呼んで、誰か怪しがる
即ち一つには、いやや無頼の美称であり、
とくに作家の場合、無頼にみちがちな無能と
いひたいほど、無頼の尊厳さよをよせひあ
る。

(11)

しかし、安吾も無頼であり、
無頼漢と
はるく、
無頼の徒でもない。しただけで
無頼派と呼ぶこと、
安吾自身は内心
に「おた」と思ふ。私に一度だけ、
家に安吾を訪ね、
無頼といふより遠が、
る印象を受けたり。

(12)

このは随分大きな水敷と離れ間、
いふことも便所で行く六畳間ほどのあり、
小房なども見えず、
すべし、
無用は広大なる構

無頼

構

おぼと